

近代化産業遺産「雄別炭礦鉄道車両(8722号)」について

株式会社釧路製作所本社工場

■ 雄別鉄道について

雄別鉄道は、1923（大正12）年、北海炭礦鉄道として営業を開始、翌24年三菱鉱業傘下に入り、雄別炭礦鉄道として事業を展開して、1959（昭和34）年には経営合理化のため、炭鉱部門から分離され雄別鉄道となりました。

釧路～雄別炭山間44.5kmを結んだ鉄路は、

C11形やC56形蒸気機関車等が石炭輸送に活躍したほか、釧路市街地への通勤通学の足として活躍、1957（昭和32）年には気動車も導入しました。しかし、親会社である雄別炭鉱が1970（昭和45）年に閉山、雄別鉄道も47年の歴史に幕をおろしました。

■ 8722号について

8722号は、8700形として現存する国内唯一の車両です。

8700形は1911（明治44）年、当時の東海道本線などの急行列車けん引用として、英・独・米の3国から輸入された蒸気機関車の一形式で、英国ノースブリティッシュ社から12両が輸入され、翌年には国産大型機関車の製造技術取得を目的に、汽車製造会社で18両が追加製造されました。

当時の国内産業の技術水準は欧米に「追いつき、追い越せ」という時勢で、機械・車両などの多くは欧米からの輸入品の模倣であり、8722号の車輪やロッド類も、当時のわが国の鑄鋼技術では製作することが出来ず、ドイツ・ヘンシェル社の輸入品に頼っていました。

製造当初は東北線用として盛岡・青森に配置されていましたが、その後国産の大型蒸気機関車が登場すると一線を去り、北海道拓殖鉄道を経て1957（昭和32）年に雄別炭礦鉄道に譲渡され釧路～雄別炭山間の石炭輸送に活躍、同鉄道の廃止後、関連会社であった当社に引き取られ保存されました。8722号は阿寒町（現在は釧路市）にあるC1165号と共に、雄別炭礦鉄道の残り少ない保存車両です。

8700形の後継機は8620形ですが、こちらは現在JR九州で動態保存されています。8700形は大正期以降の国産蒸気機関車の製造に大きな影響を与えた機関車で、明治期の工業技術史や雄別炭鉱関連資料として大変貴重な存在であり、平成19（2007）年に経済産業省より「近代化産業遺産」として認定されています。

昭和55（1980）年に現在の場所に展示いたしました。展示以来多くの皆さんが見学に来ており、また釧路市立共栄小学校3年生の写生画材としてもその存在価値を高め、近年はJR北海道釧路支社主催の「冬のSLと石炭のマチ・釧路モニターツアー」でも多くの方に立ち寄っていただいています。

■ 参考

株式会社釧路製作所→近代化産業遺産 <http://www.kushiro-ses.co.jp/sl8722>

43.1.21改正											釧路——雄別炭山 (雄別鉄道)										
110	130	150	170	190	210	230	キロ	運賃	駅	名	100	120	140	160	180	200	220				
654	821	1053	1250	1657	1750	2019	0.0	円	突	釧路	625	747	942	1146	1510	1654	2003				
656	823	1055	1252	1569	1752	2021	1.2	10	〃	新釧路	625	745	940	1144	1508	1652	2001				
700	827	1059	1256	1603	1766	2025	3.5	20	〃	中園	619	741	937	1140	1504	1648	1957				
703	831	1102	1300	1607	1800	2028	5.9	30	〃	雄鉄	616	737	933	1136	1500	1645	1954				
708	836	1107	1305	1612	1805	2033	9.5	40	〃	鶴野	611	732	929	1131	1485	1640	1949				
714	842	1115	1311	1618	1811	2039	14.5	60	〃	北斗	1	726	925	1125	1449	1631	1943				
722	848	1120	1316	1623	1816	2044	18.9	80	〃	山花	600	721	917	1119	1444	1626	1938				
729	855	1127	1324	1631	1823	2051	25.2	100	〃	杉田	1	713	910	1110	1435	1615	1931				
737	904	1134	1331	1638	1830	2058	31.3	120	〃	阿寒	547	706	903	1102	1429	1608	1924				
746	913	1143	1340	1647	1839	2107	38.7	150	〃	古淵	538	656	853	1053	1420	1559	1915				
754	921	1151	1348	1655	1847	2115	44.1	170	〃	雄別炭山	651	648	845	1045	1412	1552	1908				

